

筑波大学卒業生に対する共通科目「体育」に関する調査報告

金谷麻理子, 松田裕雄

1. はじめに

体育センターでは、2009年度より「知の競争時代における大学体育モデルの再構築に関する実践研究」(通称 SPERT プロジェクト)に取り組んでいる。本調査は、この研究プロジェクトの一環として、これまでに体育センターが行ってきた教育活動の実態を明らかにするために実施した筑波大学卒業生を対象とした共通科目「体育」(以下、「体育」)についての調査である。本調査の主な質問内容は、「卒業生(元受講生)から見た「体育」はどのようなものであったか」、「大綱化前後では教育効果にどのような違いが見られるか」、そして、それによって体育センターが掲げてきた「教育目標が達成されていたかどうか」、さらに卒業生(元受講生)は「大学における体育についてどのような意見をもっているか」などであった。

以下では、この調査の実施にともなう作業および調査結果の概要を報告する。

2. 調査方法

(1) 質問紙の作成

本アンケート調査で用いた質問紙は資料1に示したものであり、2002年度から体育センターが実施している『体育』の学生による授業評価(橘ら、2005)を参考に以下の手順で作成した。

はじめに、筑波大学および体育センターにおける『体育』に関する文献(筑波新大学創設準備会、1973; 筑波大学大学体育研究会、1977; 筑波大学、1980; 筑波大学体育センター、1994-2009; 筑波大学、2009)から教育内容お

よび教育効果に関するキーワードを抽出し、意味が曖昧なものや今回の調査の意図とは一致しないものを削除した後、KJ法を参考に質問項目に用いるキーワードを決定した。そして、そのキーワードを用いた質問項目を作成し、調査対象者と同様の立場にある大学院生59名に対してプレ調査を実施、その後この結果に基づいて質問形式や語句を修正し、本調査の質問項目を確定した。その際には、回答率の向上や先行研究との比較を行うことを前提として、A3用紙裏表使用で1枚(A4用紙4枚分)になるようにした。

以上の手続きを踏み、質問項目は【Ⅰ】フェイスシート(10項目)、【Ⅱ】「学生時代に受講した『体育』の授業がどのようなものであったか」について(61項目)、そして【Ⅲ】「大学教育における『体育』の必要性」について(5項目)となった。【Ⅱ】はさらに、「1. 受講した『体育』の満足度」(10項目)、「2. 授業の内容や効果に関すること」(41項目)、「3. 『体育』の現在の生活への影響」(10項目)の3項目から構成された。

回答法は【1】と【3】は2~12項目からの選択および自由記述、【Ⅱ】は、1が「非常に不満、不満、やや不満、やや満足、満足、非常に満足」をそれぞれ1~6とした6段階評価、2と3は「まったく思わない、思わない、あまり思わない、やや思う、思う、とても思う」をそれぞれ1~6とした6段階評価とし、最後に『体育』についての意見として自由記述1項目を設定した。

(2) 調査実施の概要

調査対象者は、筑波大学卒業生のうち体育専

門学群を除き、1974年度（昭和49年度）入学の1期生から2006年度（平成17年度）入学の32期生までの中から2000名を無作為に抽出した。そして、宛先情報が不十分であった5名を除いて、調査用紙1995通を郵送にて配布した。郵送日時は2010年2月9日で、回答期限は2月26日とした。

その結果、回答メ切を遅延したものも含めて588通を回収（回収率29.5%）した。このうち、回答に空欄が多いもの、判別不能な回答があるものを除き530通（有効回答率26.6%）を有効回答としてデータ処理を行った。

3. 調査結果

質問項目【Ⅰ】(1)～(10)は基本情報であり、このうち回答者の性別、年齢、筑波大学（学群）入学年度、学群生時代の所属サークル、学群生時代に受講した体育の必修単位数、現在の職業、現在の日常生活における運動習慣についてはそれぞれ図1～図7に示した。なお、学群生時代の所属サークルの運動系には、季節限定のサークルも含まれており、現在の職業のその他には自営業やパート、アルバイト、専業主婦、学生などが含まれている。

質問項目【Ⅱ】1. (11)～(20)は『体育』の満足度であり、図8に示すように全体的に満足度が高く、特に、体育施設・設備、担当教員、授業内容、授業の雰囲気などの評価は高かった。一方、科目選択方法、開講科目（種類・数）についてはやや低く、希望の科目を受講できない場合があったためと考えられる。

質問項目【Ⅱ】2. (21)～(60)の「卒業生から見た『体育』はどのようなものであったか」に関する結果について、表1に示した。また、これらの項目について因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った結果、「人間力の育成」、「健康意識の向上」、「スポーツや身体運動の価値の認識」、「スポーツ種目の特性の理解」の4因子が抽出された（表2）。さらに、この4

□男子 ■女子 □未回答

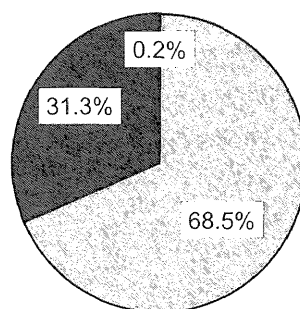


図1 性別

□20歳代 ■30歳代 ■40歳代 □50歳代

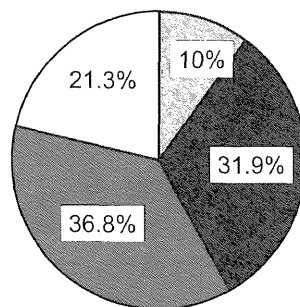


図2 年齢

□大綱化前 ■大綱化後

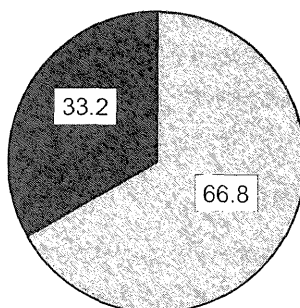


図3 筑波大学（学群）入学年度
（大綱化前：1991年度以前，大綱化後：1992年度以後）

因子の下位尺度得点平均の一要因分散分析による検定を行った結果、「人間力の育成」は他の3因子に比べて低いという結果が得られた（図9）。

質問項目【Ⅱ】3. (61)～(70)の『体育』が現在の生活へ及ぼしている影響に関する結果に

□ 運動・体育会系 ■ 文化・芸術系
 ■ 無所属 □ 未回答

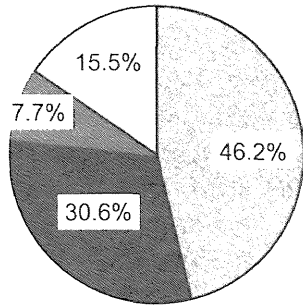


図4 学群生時代の所属サークル

□ 会社員 ■ 公務員(教員以外)
 ■ 教員・教育関係 □ その他

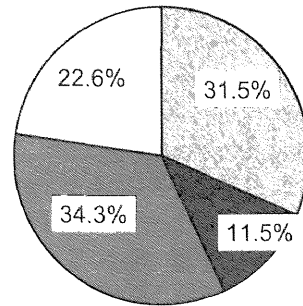


図6 現在の職業

□ 2単位 ■ 3単位 ■ 4単位

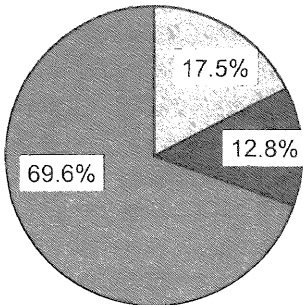


図5 学群生時代に受講した「体育」の必修単位数

□ 定期的(1回/週)以上 ■ 定期的(1回/週)未満 ■ 未回答

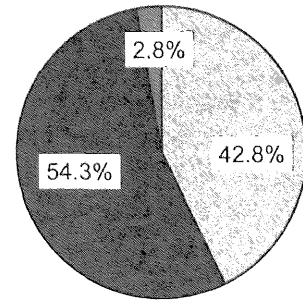


図7 現在の日常生活における運動習慣

■ とても思う □ 思う □ やや思う □ あまり思わない ■ 思わない □ まったく思わない □ 欠損
 0% 20% 40% 60% 80% 100%

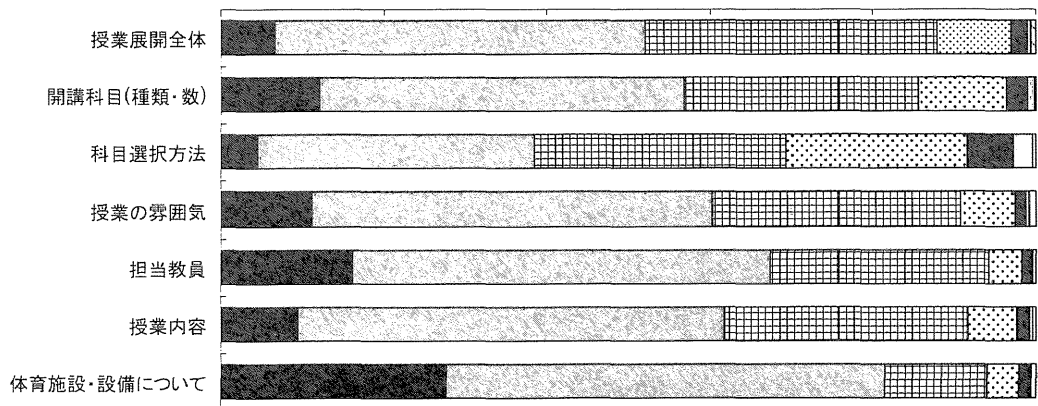


図8 「体育」の満足度

表1 「卒業生から見た体育はどのようなものであったか」に関する質問項目の結果

質問項目	各項目の得点		
Q.21 健康の必要性を感じた	3.82	±	1.2
Q.22 スポーツ・運動が習慣化した	3.15	±	1.2
Q.23 スポーツのルールを学んだ	3.84	±	1.1
Q.24 問題解決能力がついた	2.71	±	1.0
Q.25 自己の身体への気づきがあった	3.62	±	1.2
Q.26 スポーツ技術を向上させることができた	3.84	±	1.2
Q.27 人のために動けるようになった	2.78	±	1.0
Q.28 気分転換、息抜きの必要性を感じた	4.22	±	1.2
Q.29 自分の健康を管理できるようになった	3.28	±	1.1
Q.30 スポーツを「支える」ことへの興味・関心が広がった	2.93	±	1.1
Q.31 スポーツの文化的理解が深まった	3.30	±	1.2
Q.32 物事を実践する力がついた	2.92	±	1.0
Q.33 健康維持の方法を理解した	3.31	±	1.1
Q.34 生涯スポーツの必要性を感じた	3.80	±	1.2
Q.35 スポーツの戦術を理解した	3.26	±	1.2
Q.36 協調性が身についた	3.32	±	1.1
Q.37 自然に親しむ態度が養われた	2.98	±	1.1
Q.38 体力を向上させることができた	3.78	±	1.1
Q.39 スポーツ・運動への興味・関心が広がった	4.14	±	1.1
Q.40 コミュニケーション力がついた	3.29	±	1.1
Q.41 創造力が養われた	2.73	±	1.0
Q.42 プロポーションづくりに役だった	2.69	±	1.0
Q.43 スポーツを人に教える楽しさがわかった	2.75	±	1.1
Q.44 教養としての体育・スポーツの意義を理解した	3.68	±	1.2
Q.45 感情をコントロールできるようになった	2.72	±	1.0
Q.46 チャレンジ精神がついた	3.31	±	1.2
Q.47 スポーツの芸術性を認識できた	2.80	±	1.1
Q.48 スポーツを「する」ことの楽しさがわかった	4.24	±	1.2
Q.49 運動の必要性を認識した	4.12	±	1.2
Q.50 自己に向き合い、自己開発していく力がついた	2.99	±	1.1
Q.51 安全にスポーツを行う能力が身についた	3.64	±	1.0
Q.52 思いきり体を動かす喜びを感じた	4.06	±	1.2
Q.53 体力トレーニングの知識や方法を理解した	3.69	±	1.1
Q.54 忍耐力が身についた	3.15	±	1.1
Q.55 スポーツ技能の習得方法がわかった	3.45	±	1.0
Q.56 スポーツ・運動を継続するきっかけとなった	3.37	±	1.2
Q.57 リーダーシップを発揮できるようになった	2.62	±	1.0
Q.58 スポーツを「見る」ことの楽しさがわかった	3.34	±	1.3
Q.59 マナーを身につけ、他者への配慮できるようになった	3.18	±	1.1
Q.60 健康に関する知識が身に付いた	3.47	±	1.1

表2 因子分析結果－卒業生から見た体育とは？－

項目	因子負荷量
第1因子：人間力の育成	
Q.45 感情をコントロールできるようになった	0.910
Q.57 リーダーシップを発揮できるようになった	0.865
Q.36 協調性が身についた	0.798
Q.40 コミュニケーション能力が身についた	0.790
Q.41 創造力が養われた	0.778
Q.59 マナーを身につけ、他者へ配慮できるようになった	0.761
Q.27 人のために行動できるようになった	0.701
Q.37 自然に親しむ態度が養われた	0.632
Q.32 物事を実践する力が身についた	0.612
Q.54 忍耐力が身についた	0.561
Q.43 スポーツを人に教える楽しさがわかった	0.530
Q.50 自己と向き合い、自己を開発していく力が身についた	0.490
Q.24 問題解決能力が身についた	0.463
Q.30 スポーツを「支える」ことへの興味・関心が広がった	0.445
Q.47 スポーツの芸術的側面を認識できた	0.444
Q.46 チャレンジ精神が身についた	0.417
第2因子：健康意識の向上	
Q.33 健康維持の方法を理解した	0.812
Q.60 健康に関する知識が身についた	0.674
Q.21 健康の必要性を感じた	0.657
Q.53 体力トレーニングの知識や方法を理解した	0.613
第3因子：スポーツや身体運動の価値の認識	
Q.48 スポーツを「する」ことの楽しさがわかった	0.747
Q.28 気分転換、息抜きの必要性を感じた	0.686
Q.52 思いきり体を動かす喜びを感じた	0.546
Q.39 スポーツ・運動への興味・関心が広がった	0.505
Q.44 教養としての体育・スポーツの意義を理解した	0.478
第4因子：スポーツの種目特性の理解	
Q.35 スポーツの戦術を理解した	0.742
Q.23 スポーツのルールを学んだ	0.654
Q.31 スポーツの文化的理解が深まった	0.421

ついて、図10に示した。その結果、「健康・体力」、「運動の習慣化」、「生涯スポーツの必要性」、「運動を楽しむ態度」については対象者の60%以上が『体育』が現在の生活に影響を及ぼしている」と回答した。

質問項目【Ⅲ】(72)の「大学に体育は必要であるか」に対する回答は図11に示す通りであった。また、大学体育の必要性と卒業要件、

大学体育の授業形態についての結果は図12と図13に示す通りである。

最後に、質問項目【Ⅱ】3.(71)と【Ⅲ】(73)、(76)および巻末の自由記述欄の回答を【Ⅱ】1.「体育」の満足度の質問項目を参考に肯定的な意見と否定的な意見に分けてまとめた(表3)。

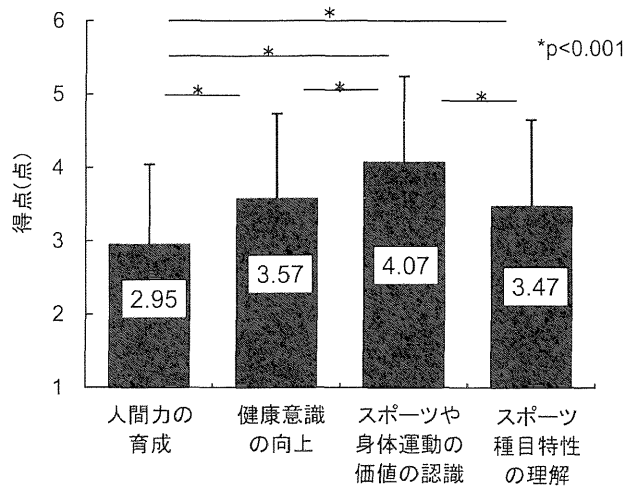


図9 各因子の下位尺度得点

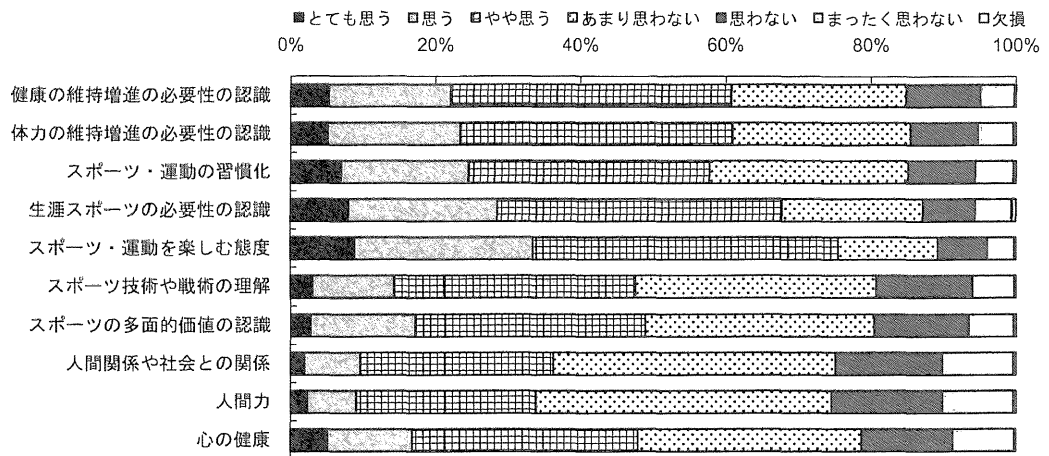


図10 現在の生活や考え方に体育が及ぼしている影響

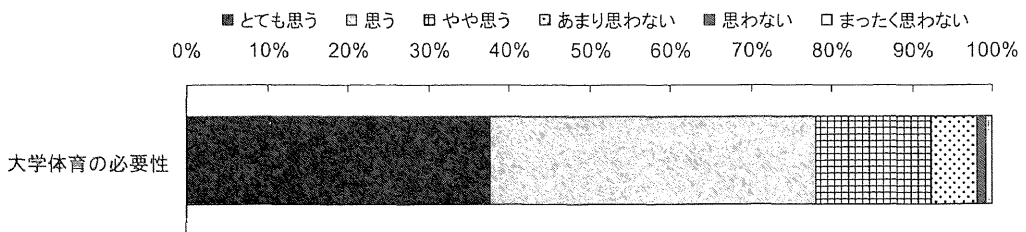


図11 大学における体育授業の必要性

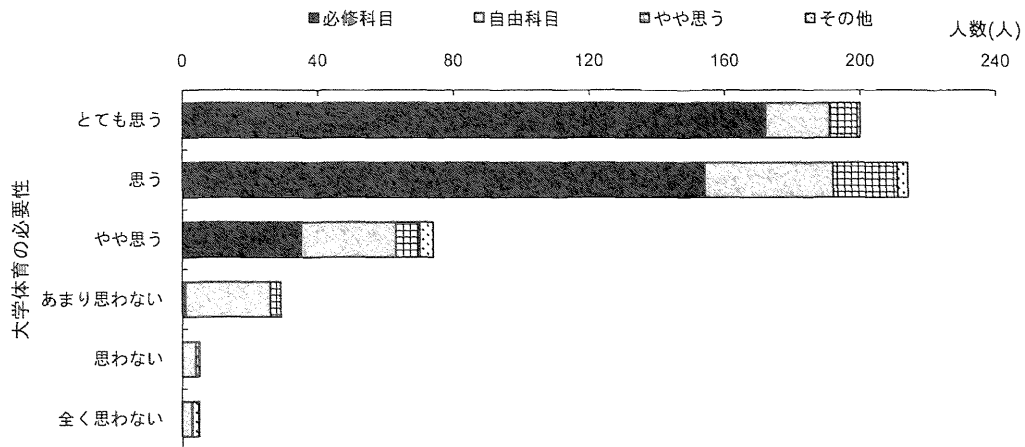


図 12 大学体育の必要性と卒業要件

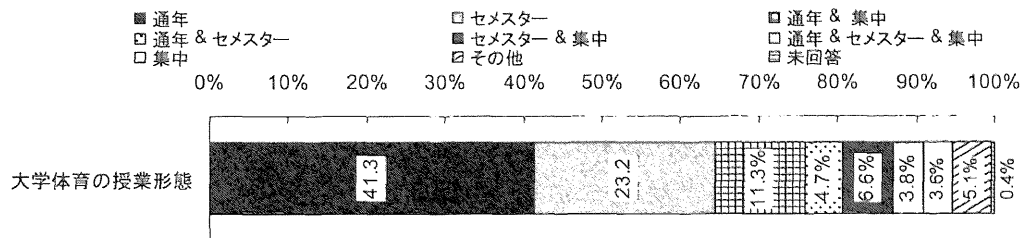


図 13 大学における体育授業の形態

4. 調査結果の考察

(1) 『『体育』はどのようなものであったか』について

質問項目【Ⅱ】2. (21)～(60) の回答について因子分析を行った結果、「人間力の育成」、「健康意識の向上」、「スポーツや身体運動の価値の認識」、「スポーツ種目の特性の理解」の4因子が抽出された。また、これらの4因子の下位尺度得点平均の一要因分散分析による検定を行った結果、「人間力の育成」は他の3因子に比べて有意に低かった。これは、人間力は近年現れた概念であり、調査対象者が学生時代であった頃は考慮されていなかったためであると考えられる。

(2) 大綱化前 / 後の比較

大綱化前 / 後で比較してみると、『『体育』はどのようなものであったか?』については、各因子における下位尺度得点に大きな差は見られなかった(図14)。このことは、大綱化による単位数の減少に対して、個々の教員が対策を講じて教育効果を維持していたためと推察される。しかし、大綱化前後では年齢層に大きな差があることから、各質問項目について年代ごとの比較を行った。その結果、「健康と運動」の認識および運動習慣の関係について、30代と50代の間に違いが見られた(表4)。すなわち、30代は健康維持に運動は必要であり、『体育』も必要と考えているが、現在の運動習慣は低く、50代は健康維持に運動は必要であり、現在の運動習慣も他の年代に比べ高いという結

表3 自由記述のまとめ

肯定的意見	否定的意見
1. 授業展開全体について	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ+アカデミック＝海外の一流大学の証である (他大学にはない) ・一流の先生や選手と触れ合う貴重なチャンス ・総合大学ならではの学びのチャンス ・自然と親しめてよかった ・体育で受講したことを生かし、つくばマラソンに完走できたことが本当に嬉しかった <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度設定が適切でない ・3年間通年は多すぎる ・体力測定がいや ・授業前後の移動が大変 ・科目選択時に情報が少ない ・体を動かすだけでは意味がない ・通年で1単位は納得できない ・1限目がきつい <p style="text-align: right;">など</p>
2. 開講科目(種類・数)について	
<ul style="list-style-type: none"> ・4年次まで必修体育や体力測定があるのは今思うとすばらしかったと思う ・週に1回の授業を1年間受講することでそれなりに技術が身につけてよかった ・大学4年間毎週体育の機会に接することは後々に考えると非常に考えられたカリキュラムだ ・人気のない科目も良かった ・種目の選択肢が多かった <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医学の必修の体育を増やしてほしい ・できそうなものがなかった ・理科系の学群の必修単位数が多いのは不公平 ・文系学生にとって4年間の体育必修は苦痛 ・やりたいものが1つしか選べないので他にもやりたい種目が多く選択するのに悩んだ <p style="text-align: right;">など</p>
3. 科目選択方法について	
<ul style="list-style-type: none"> ・経験のない種目を選択できていい経験になった ・抽選性によっては希望していなかった種目の意外なおもしろさを知る機会になる可能性もある <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人数制限があって受講できなかった ・受講者の選抜方法に納得がいかない ・希望する科目が選択できなかったことから受講の意欲はあまりなかった ・人気のある授業は受講人数枠を増やす等の対策をして欲しかった <p style="text-align: right;">など</p>
4. 授業の雰囲気について	
<ul style="list-style-type: none"> ・受講した科目ではいずれも男女が一緒に練習や試合を行っていたのが良かった ・伸び伸びと受講できた ・受講した科目ではいずれも男女が一緒に練習や試合を行っていたのが良かった <p style="text-align: right;">など</p>	
5. 担当教員について	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的指導が受けられてよかった ・国際的な指導者から指導を受けられた ・熱心に教えてもらい楽しい講義を受ける事が出来た ・運動する楽しさを教えてもらった ・スポーツの世界を一つ広げていただいた <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員によって内容のばらつきがある ・出張や大会のため休講の多い教員がいた ・学生数が多いため指導を受けられなかった ・自慢話や他の先生の悪口はNG ・先生の立場を利用した半強制的な物品販売は問題だ <p style="text-align: right;">など</p>
6. 授業内容について	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学での体育は自己の記録を伸ばすことに主眼が置かれ、スポーツの楽しさに気づくことができた ・体力維持や体のリズムを保つうえで大変良かった ・すばらしい環境で体育の授業ができとても満足 ・他学の人と触れ合う良い機会だった ・生涯経験できないであろう経験が出来た ・一流選手と同じ環境でスポーツが出来てよかった ・歴史まで学べて、TVでも見るようになった ・戦術、動作を教えてもらえ、能力に関わらず楽しめた <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レベルが高すぎる ・栄養学や健康等一般的教養的なことも必要 ・高校までとは異なる体育にすべき ・「楽しむ」や「技術向上」の意味が分からなかった ・「競技スポーツ」は必要ない ・講義の方が有効 ・種目によっては競技性を薄めていたものもあった ・下手な学生にも技術的なフォローを ・レクリエーション的なものばかりでなく競争も ・実践と理論の両方が必要 <p style="text-align: right;">など</p>
7. 体育施設・設備について	
<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく施設がたくさんあるので、他では出来ないスポーツができることを大学のウリとして全面に出してもいいと思う ・施設・設備が充実していた <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前後の授業次第で着替え等の準備が大変だった ・ロッカーがないため、荷物を持ち歩かなければならない ・移動、着替え時間の確保を <p style="text-align: right;">など</p>

※自由記述の中から、印象的な記述と内容が類似した記述をまとめて抜粋。

表4 年齢別運動習慣の比較

	定期的な運動習慣	不定期な運動習慣	未回答	合計
20歳代 (人)	22	30	1	53
20歳代 (%)	41.5	56.6	1.9	100
30歳代 (人)	68	92	9	169
30歳代 (%)	40.2	54.4	5.3	100
40歳代 (人)	82	112	1	195
40歳代 (%)	42.1	57.4	0.5	100
50歳代 (人)	55	54	4	113
50歳代 (%)	48.7	47.8	3.5	100
合計 (人)	227	288	15	530
合計 (%)	42.8	54.3	2.8	100

果であった。この結果に自由記述を照らし合わせると、50代における運動の必要性の認識は、現在の生活環境や自らの健康問題などの理由によって認識している場合が多いことが推察された。つまり、このような年代での比較の結果には『体育』以外の要因も影響していると考えられる。そこで、生活環境が似ていると考えられた大綱化前後5年間の対象者のみを抽出し、各因子における下位尺度得点の比較を行った。

その結果、大綱化前の方が全体的に得点が高い傾向が見られた(図15)。この結果は大綱化

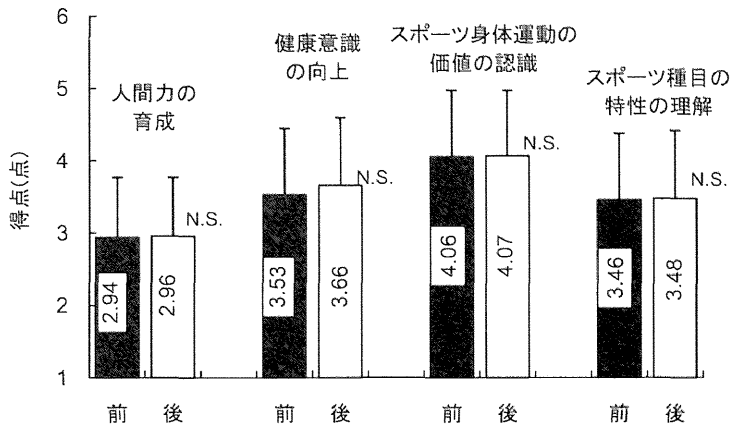


図14 各因子における下位尺度得点の大綱化前/後の比較

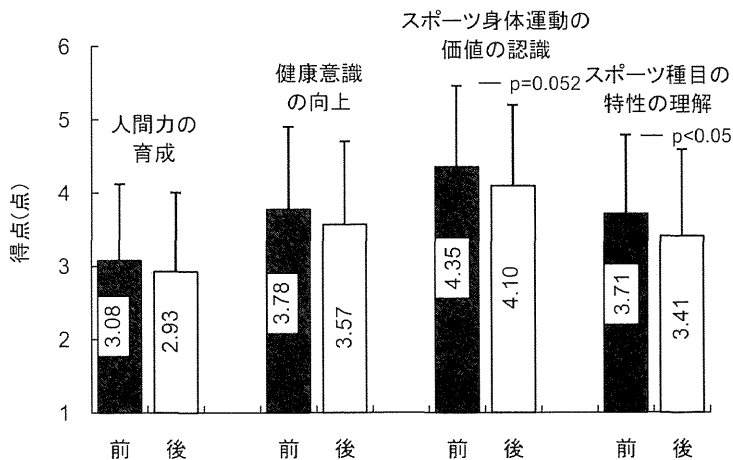


図15 各因子における下位尺度得点の大綱化前/後5年間の比較

前では4年間に『体育』があり、定期的にスポーツ・運動に関わることが多かったためであると考えられる。すなわち、『体育』はより長期間に渡って行った方が効果的であり、その後の運動に対する認識にも影響を与えると推察される。

(3) 大綱化後における卒業要件の単位数別の比較

卒業要件に必要な単位数は、大綱化前は全学生(体育専門学群を除く)が4単位(4年間)で、大綱化後は専門領域によって2単位(2年間)、3単位(3年間)、4単位(4単位)が課せられる弾力的なカリキュラムとなった。つまり、大綱化後は各専門領域の方針によって「体育」に異なる位置づけがされたことになる。そこで、大綱化前から単位数が減少した2単位(2年間)と3単位(3年間)の専門領域に属していた対象者を抽出し、比較を行った。その結果、表5および表6に示すように2単位群よりも3単位群の方が得点の増加項目が多かった。

(4) 運動習慣について

運動習慣に着目すると、全体としては、1週間に1回以上という定期的に運動している者が42.5%で、全国平均の44.4%(平成18年度の内閣府の調査による成人のスポーツ実施率)とほぼ同様であった。

また、運動習慣の形成に関する項目を大綱化前後で比較すると、大綱化前の方が高い得点であった(図16)。定期的な運動習慣をもつ者は大綱化前では46.0%、大綱化後では38.4%で大綱化前の方が高いこと、大綱化前後含めての単位数別の比較では4単位群が44.3%、3単位群が42.5%、2単位群が39.8%であり、また単位数が多いほど高いことから、在学期間における必修『体育』の年数の違いがその後生活における運動習慣に影響を与えていたと推察される。ただし、健康に関する知識については、大綱化後の対象者の方が高い傾向が見受けられた。

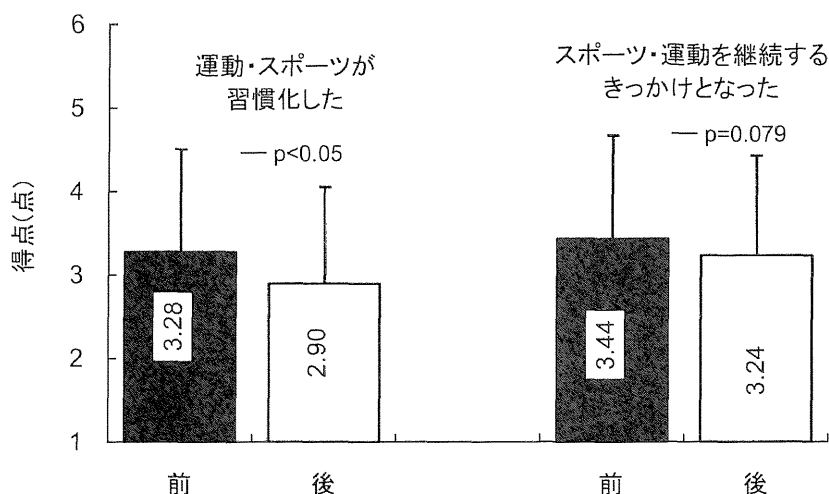


図16 大綱化前/後の運動習慣の形成に関する項目間の得点比較

表5 大綱化により4単位から2単位に減少した学類間の比較

	4単位 (大綱化前)		t 検定
	n = 224	2 (大綱化後) n = 93	
Q.21 健康の必要性を感じた	3.81	3.75	N.S.
Q.22 スポーツ・運動が習慣化した	3.27	3.02	p = 0.096 ↓
Q.23 スポーツのルールを学んだ	3.84	3.83	N.S.
Q.24 問題解決能力がついた	2.77	2.71	N.S.
Q.25 自己の身体への気づきがあった	3.66	3.57	N.S.
Q.26 スポーツ技術を向上させることができた	3.95	3.68	p < 0.05 ↓
Q.27 人のために動けるようになった	2.84	2.71	N.S.
Q.28 気分転換、息抜きの必要性を感じた	4.13	4.22	N.S.
Q.29 自分の健康を管理できるようになった	3.33	3.13	N.S.
Q.30 スポーツを「支える」ことへの興味・関心が広がった	3.04	2.77	N.S.
Q.31 スポーツの文化的理解が深まった	3.38	3.40	N.S.
Q.32 物事を実践する力がついた	2.95	2.97	N.S.
Q.33 健康維持の方法を理解した	3.26	3.38	N.S.
Q.34 生涯スポーツの必要性を感じた	3.79	3.86	N.S.
Q.35 スポーツの戦術を理解した	3.28	3.16	N.S.
Q.36 協調性が身についた	3.35	3.24	N.S.
Q.37 自然に親しむ態度が養われた	3.07	2.91	N.S.
Q.38 体力を向上させることができた	3.82	3.70	N.S.
Q.39 スポーツ・運動への興味・関心が広がった	4.15	4.15	N.S.
Q.40 コミュニケーション力がついた	3.32	3.18	N.S.
Q.41 創造力が養われた	2.73	2.62	N.S.
Q.42 プロポーションづくりに役だった	2.63	2.73	N.S.
Q.43 スポーツを人に教える楽しさがわかった	2.83	2.59	N.S.
Q.44 教養としての体育・スポーツの意義を理解した	3.69	3.68	N.S.
Q.45 感情をコントロールできるようになった	2.76	2.61	N.S.
Q.46 チャレンジ精神がついた	3.32	3.25	N.S.
Q.47 スポーツの芸術性を認識できた	2.88	2.81	N.S.
Q.48 スポーツを「する」ことの楽しさがわかった	4.24	4.08	N.S.
Q.49 運動の必要性を認識した	4.04	4.18	N.S.
Q.50 自己に向き合い、自己開発していく力がついた	2.96	3.12	N.S.
Q.51 安全にスポーツを行う能力が身についた	3.60	3.70	N.S.
Q.52 思いきり体を動かす喜びを感じた	4.01	3.89	N.S.
Q.53 体力トレーニングの知識や方法を理解した	3.66	3.65	N.S.
Q.54 忍耐力が身についた	3.16	3.14	N.S.
Q.55 スポーツ技能の習得方法がわかった	3.49	3.45	N.S.
Q.56 スポーツ・運動を継続するきっかけとなった	3.41	3.24	N.S.
Q.57 リーダーシップを発揮できるようになった	2.71	2.47	p = 0.069 ↓
Q.58 スポーツを「見る」ことの楽しさがわかった	3.33	3.31	N.S.
Q.59 マナーを身につけ、他者への配慮できるようになった	3.14	3.24	N.S.
Q.60 健康に関する知識が身に付いた	3.33	3.58	p = 0.080 ↑

表6 大綱化により4単位から3単位に減少した学類間の比較

	4単位 (大綱化前) n = 89	3 (大綱化後) n = 68	t 検定
Q.21 健康の必要性を感じた	3.85	3.99	N.S.
Q.22 スポーツ・運動が習慣化した	3.34	2.75	p < 0.05 ↓
Q.23 スポーツのルールを学んだ	3.81	3.78	N.S.
Q.24 問題解決能力がついた	2.69	2.50	N.S.
Q.25 自己の身体への気づきがあった	3.56	3.85	N.S.
Q.26 スポーツ技術を向上させることができた	3.75	3.84	N.S.
Q.27 人のために動けるようになった	2.74	2.75	N.S.
Q.28 気分転換、息抜きの必要性を感じた	4.25	4.44	N.S.
Q.29 自分の健康を管理できるようになった	3.31	3.35	N.S.
Q.30 スポーツを「支える」ことへの興味・関心が広がった	2.85	2.87	N.S.
Q.31 スポーツの文化的理解が深まった	3.17	3.24	N.S.
Q.32 物事を実践する力がついた	2.87	2.88	N.S.
Q.33 健康維持の方法を理解した	3.24	3.49	N.S.
Q.34 生涯スポーツの必要性を感じた	3.55	4.06	p < 0.01 ↑
Q.35 スポーツの戦術を理解した	3.13	3.25	N.S.
Q.36 協調性が身についた	3.33	3.31	N.S.
Q.37 自然に親しむ態度が養われた	3.07	2.91	N.S.
Q.38 体力を向上させることができた	3.73	3.85	N.S.
Q.39 スポーツ・運動への興味・関心が広がった	4.09	4.26	N.S.
Q.40 コミュニケーション力がついた	3.13	3.57	p < 0.01 ↑
Q.41 創造力が養われた	2.72	2.88	N.S.
Q.42 プロポーションづくりに役だった	2.67	2.96	p = 0.074 ↑
Q.43 スポーツを人に教える楽しさがわかった	2.66	2.81	N.S.
Q.44 教養としての体育・スポーツの意義を理解した	3.62	3.74	N.S.
Q.45 感情をコントロールできるようになった	2.72	2.72	N.S.
Q.46 チャレンジ精神がついた	3.19	3.46	N.S.
Q.47 スポーツの芸術性を認識できた	2.62	2.75	N.S.
Q.48 スポーツを「する」ことの楽しさがわかった	4.28	4.29	N.S.
Q.49 運動の必要性を認識した	3.98	4.41	p < 0.05 ↑
Q.50 自己に向き合い、自己開発していく力がついた	2.92	3.10	N.S.
Q.51 安全にスポーツを行う能力が身についた	3.48	3.75	N.S.
Q.52 思いきり体を動かす喜びを感じた	4.00	4.41	p < 0.05 ↑
Q.53 体力トレーニングの知識や方法を理解した	3.56	3.91	p < 0.05 ↑
Q.54 忍耐力が身についた	3.01	3.32	p = 0.059 ↑
Q.55 スポーツ技能の習得方法がわかった	3.36	3.40	N.S.
Q.56 スポーツ・運動を継続するきっかけとなった	3.48	3.28	N.S.
Q.57 リーダーシップを発揮できるようになった	2.58	2.56	N.S.
Q.58 スポーツを「見る」ことの楽しさがわかった	3.22	3.51	N.S.
Q.59 マナーを身につけ、他者への配慮できるようになった	3.08	3.31	N.S.
Q.60 健康に関する知識が身に付いた	3.52	3.71	N.S.

5. おわりに

現在は、ここで示したデータに基づいて研究論文を作成中である。

また、ここで示した結果についてより詳細な検討を加えるとともに、教育目標に対する評価やカリキュラムの変遷との関係、さらには実際に授業を実施している教員を対象とした「どのような授業を行っているか」についてのアンケート調査の結果なども照らし合わせて考察し、これまでの体育センターの『体育』の実態を明らかにしていきたい。

付記

本調査報告は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）（課題番号 21240060）の一部である。

参考文献

- 筑波新大学創設準備会（1973）筑波大学の創設準備について－まとめ－。
筑波大学（2009）筑波スタンダード。 <http://d-pam.com/univ/tsukuba/2009.12.14>。
筑波大学（1980）筑波大学の基本構想。
筑波大学体育センター（1994-2009）：平成6～21年度共通科目「体育」教育課程。
筑波大学大学体育研究会（1977）大学体育教本、不味堂出版、東京。
橘直隆（2005）2002年度・2003年度学生による授業評価の報告、大学体育研究、17、77-85。

資料1 本調査で用いた質問紙

筑波大学学群生時代に受講した「体育」の授業に関するアンケート

【I】あなた自身のことについて、以下の質問にお答えください。

選択肢のある項目については、該当するものに○をお付け下さい。

(1) 性別	1. 男性	2. 女性			
(2) 年齢	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	
(3) 筑波大学(学群)入学年度	西暦_____年_____月				
(4) 学群生時代の所属学群・学類	_____学群_____学類				
(5) 最終学歴	1. 学群卒業	2. 修士課程 <u>修了・退学</u>	3. 博士課程 <u>修了・退学</u>		
(6) 学群生時代の所属サークル(例: テニス同好会, 軽音楽サークルなど 複数回答可)	_____				
(7) 学群生時代に受講した体育の必修単位数	_____単位	1. 多い	2. 適切	3. 少ない	
(8) 学群生時代に受講した体育の科目(例: テニス, バレーボールなど 複数回答可)	_____				
(9) 現在の職業					
	1. 会社員	2. 会社役員	3. 教員・教育関係	4. 公務員(教員以外)	
	5. 団体職員	6. 自営業	7. 契約社員、派遣社員	8. パート、アルバイト	
	9. 専業主婦・主夫	10. 学生	11. 無職	12. その他()	
(10) 現在の日常生活における運動習慣(身体運動やスポーツの種目、運動様式などは問いません。)					
	1. ほぼ毎日	2. 週3・4回程度	3. 週1・2回程度	4. 月に2・3回程度	
	5. 年に数回程度	6. まったくしていない			

【II】学群生時代に受講した「体育」について、以下の質問にお答え下さい。

II-1. 学群生時代を振り返って、あなたが受講した「体育」の授業は満足できるものでしたか？

以下の項目について、該当する番号に○をお付けください。

	非常に不満	不満	やや不満	やや満足	満足	非常に満足
(11) 授業展開全体について・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(12) 開講科目(種類・数)について・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(13) 科目選択方法について・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(14) 授業の雰囲気について・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(15) 担当教員について・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(16) 授業内容について・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(17) 体育施設・設備について・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(18) 講義について(受講経験者のみ)・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(19) 自由科目について(受講経験者のみ)・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(20) 集中授業について(受講経験者のみ)・・・・・・	1	2	3	4	5	6

Ⅱ-2. 学群生時代を振り返って、あなたが受講した「体育」はどのような授業であったと思いますか？

以下の項目について、該当する番号に○をお付けください。

	まったく 思わない	思わない	あまり 思わない	やや 思う	思う	とても 思う
(21) 健康の必要性を感じた・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(22) スポーツ・運動が習慣化した・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(23) スポーツのルールを学んだ・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(24) 問題解決能力が身についた・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(25) 自己の身体への気づきがあった・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(26) スポーツ技術を向上させることができた・・	1	2	3	4	5	6
(27) 人のために行動できるようになった・・	1	2	3	4	5	6
(28) 気分転換、息抜きの必要性を感じた・・	1	2	3	4	5	6
(29) 自分の健康を管理できるようになった・	1	2	3	4	5	6
(30) スポーツを「支える」ことへの興味・関心が広がった・	1	2	3	4	5	6
(31) スポーツの文化的理解が深まった・・	1	2	3	4	5	6
(32) 物事を実践する力が身についた・・	1	2	3	4	5	6
(33) 健康維持の方法を理解した・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(34) 生涯スポーツの必要性を感じた・・	1	2	3	4	5	6
(35) スポーツの戦術を理解した・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(36) 協調性が身についた・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(37) 自然に親しむ態度が養われた・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(38) 体力を向上させることができた・・	1	2	3	4	5	6
(39) スポーツ・運動への興味・関心が広がった・	1	2	3	4	5	6
(40) コミュニケーション能力が身についた・	1	2	3	4	5	6
(41) 創造力が養われた・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(42) プロポーションづくりに役立った・・	1	2	3	4	5	6
(43) スポーツを人に教える楽しさがわかった・	1	2	3	4	5	6
(44) 教養としての体育・スポーツの意義を理解した・	1	2	3	4	5	6
(45) 感情をコントロールできるようになった・・	1	2	3	4	5	6
(46) チャレンジ精神が身についた・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(47) スポーツの芸術的側面を認識できた・・	1	2	3	4	5	6
(48) スポーツを「する」ことの楽しさがわかった・	1	2	3	4	5	6
(49) 運動の必要性を認識した・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
(50) 自己と向き合い、自己を開発していく力が身についた・	1	2	3	4	5	6

	まったく 思わない	思わない	あまり 思わない	やや 思う	思う	とても 思う
(51) 安全にスポーツを行う能力が身についた・	1	2	3	4	5	6
(52) 思いきり体を動かす喜びを感じた・・・・	1	2	3	4	5	6
(53) 体力トレーニングの知識や方法を理解した・	1	2	3	4	5	6
(54) 忍耐力が身についた・・・・	1	2	3	4	5	6
(55) スポーツ技術の習得方法がわかった・・・・	1	2	3	4	5	6
(56) スポーツ・運動を継続するきっかけとなった・	1	2	3	4	5	6
(57) リーダーシップを発揮できるようになった・	1	2	3	4	5	6
(58) スポーツを「見る」ことの楽しさがわかった・	1	2	3	4	5	6
(59) マナーを身につけ、他者へ配慮できるようになった・	1	2	3	4	5	6
(60) 健康に関する知識が身についた・・・・	1	2	3	4	5	6

Ⅱ-3. あなたの現在の生活や考え方に、筑波大学で受講した「体育」がどの程度、良い影響を及ぼしていると思いますか？

以下の項目について、該当する番号に○をお付けください。

	まったく 思わない	思わない	あまり 思わない	やや 思う	思う	とても 思う
(61) 健康の維持増進の必要性の認識について・	1	2	3	4	5	6
(62) 体力の維持増進の必要性の認識について・	1	2	3	4	5	6
(63) スポーツ・運動の習慣化について・・・・	1	2	3	4	5	6
(64) 生涯スポーツの必要性の認識について・・・・	1	2	3	4	5	6
(65) スポーツ・運動を楽しむ態度について・・・・	1	2	3	4	5	6
(66) スポーツ技術や戦術の理解について・・・・	1	2	3	4	5	6
(67) スポーツの多面的価値の認識について・・・・	1	2	3	4	5	6
(68) 人間関係や社会との関係について・・・・	1	2	3	4	5	6
(69) 人間力について・・・・	1	2	3	4	5	6
(70) 心の健康について・・・・	1	2	3	4	5	6

※要望や改善すべき点なども含め、あなたが筑波大学で受講した「体育」に対するご意見をお聞かせ下さい。(71)

